

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成21年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・憩いの場づくりが行えるよう、家庭的な暮らしと家族のような人間関係の中で、職員と入居者が共生・協働により、家事や洗濯、掃除、買い物などの生活を一緒に行っています。・生きがいづくりに関して、趣味や特技、こだわりを大事にしながら、自律に向けて支えていきます。・脳トレ大学リーダーを中心に、脳トレ(園芸療法、音楽療法、芸術、アクティビティー、運動、食育(地産地消))を生活の中に取り入れ、五感を刺激し、脳の活性化を意識したケアに取り組んでいます。・地域交流・異世代間交流を活発に取り入れることで、人間関係の構築に役立っています。(託児所、就労支援施設、NPO法人、ボランティア団体、その他登録ボランティア50名、ヘルパー実習受け入れ施1か所)・地域において、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の普及・啓発に取り組んでいます。(去年7回開催)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には立場の異なる出席者を多数得て自由に意見や要望を出してもらい、ケアの実践につなげている。移動販売のパン屋に定期的に来てもらったり、園芸療法等を取り入れたり、障害者施設と一緒に作品づくりをする等、利用者が楽しく生活できるよう工夫している。毎月1回、テーマを決めて利用者会議を開き、要望や意見を聞き取っている。重度化や終末期の支援を希望する場合は、医師の診断のもと家族や関係者等との連携を密にとり、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成21年8月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 朝のミーティング時唱和し、職員全員が、その日の業務において、意識をして理念を実践している。運営推進会議で、理念の具体化した内容を発表したり、地域活動に参加し交流を深めている。人事考査や勉強会にて、個々の考える具体的な理念や仕事でどのように生かしているかを言ってもらい、話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 理念に「素直な心」「思いやりの心」「いつでも初心を忘れないところ」を玄関に掲げている。朝のミーティング時には唱和して共有し、ケアの実践につなげているが、地域との協力や連携を大切にしているホームの思いが十分にことばとして表わされているとは言えない。</p>	現在の理念を基に、地域との交流や連携を実践していることを織り込むことで、ホームの思いを内外に伝えることができるので、職員全員で話し合いを行い、それを盛り込んだ理念を掲げ実践していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームの行事（ボランティアグループ演奏会や防災訓練、そうめん流し、夕涼み等）に参加して頂いたり、町内の行事（地域の清掃行事や運動会、文化祭、盆踊り等）に参加し、地域の方々との交流を大切にしている。また、参加していただいた時に、入居者様へのお手伝いやお話し相手の協力もして頂いている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入しており、地域の行事にも参加している。また、ホーム主催の夕涼み会などに近隣の方に参加してもらったり、散歩の時に近所の方とあいさつを交わしている。近くの託児所の幼児の訪問や、中学校の体験学習を受け入れ、またボランティアの受け入れも積極的に行うなど、地域とのつながりを大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所のリビングや敷地を利用して、そうめん流し、夕涼み会などを催し、地域の方を招待し、一緒に食事を交えて交流や入居者様に関わって頂く等ことから、認知症の理解や支援をしていただくようにしている。周辺地域において、職員である認知症キャラバンメイトが去年一年間で7回の認知症サポーター養成講座を開き、地域の認知症啓発に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、年一回独自の評価表に基づき、ご家族と 一緒にその項目に基づき、評価や意見をいただくようにして いる。また、現在のケアや利用状況を運営推進会議で報告・ 話し合いを行い、そこで得た意見をもとによりよいサービ スが出来るように職員会等で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 会議の意義を理解した出席者の参加を得て、2か月毎に開催 している。ホームの状況や外部評価の結果等を議題として活 発な意見交換が行われている。またホーム独自の評価表を作 り、出席者に意見や感想を提出してもらい、サービスの向上 につなげている。</p>	<p>家族会の代表者にも出席してもらっているが、他の家族にも出 席をお願いして、異なった視点から意見や思いを述べてもら うなど、サービスの向上につながる取り組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 今年度より、定期開催にしている運営推進会議をはじめとし て、ホーム行事などにも声をかけて訪問していただき、直接 に入居者様、職員と話をする場を作っている。認知症サポ ーター養成講座を通じて、意見交換などを行っている。ま た、生活保護受給者に関しても、生活福祉課担当者と状況の 連絡を密にとったり、退去者の福祉電話などの福祉サービ ス導入に結びつけたりしている。</p> <p>(外部評価) 市とは生活保護を受けている利用者について情報交換を行っ たり、ホームの実情や要望を伝えるなど、連絡を密に取っ ている。また市の依頼を受けて、地域向けの認知症理解の啓発 活動や研修会の講師などを行うこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 新人研修や勉強会等を通じて、職員全てが身体拘束について 正しく理解したケアに取り組んでいる。また、「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」以外の抑圧となるであ る行為についても十分注意し、自由な暮らしを支援してい る。</p> <p>(外部評価) 職員は、利用者に与える身体的・精神的苦痛の弊害をよく認識 しており、自由で伸びやかな暮らしが送れるよう努めてい る。日中は玄関に施錠しないで利用者一人ひとりを見守り、 近隣や警察にも協力を依頼して、安全で自由な生活を確保し ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修などで学び、ユニット長ホーム長を中心に、職員全員でケアのチェックは行い拘束がないようにしている。特に、言葉かけ方などは、丁寧な言葉かけを気をつけるようにしている。管理者が、高齢者虐待防止教育システムの講師養成研修に参加しており、その内容を職員に伝達講習を予定している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度などについての勉強会を開き、学んだ資料などはコピーして職員全員が把握できるようにしている。県社会福祉協議会に個別で相談に行き、必要な方の利用相談に応じている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の記載内容などを契約前にご家族やご入居者などに十分説明をし、理解納得をしていただき、ホームが住みやすい環境であると思っただけよう努めている。重要事項などが変更したら、家族会を開催し、不安や疑問の確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三水曜日のおやつ時間を入居者会議として、旬の食べたい物や生きたい場所そして、各月のテーマを決めて、意見をいただくようにしている。また、平成18年より全入居者を担当制にしており、担当が不安や意見の聴取や窓口の役割を担っている。運営推進会議においても、入居者様も参加され、意見を述べる機会を設けられている。  (外部評価) 毎月第3水曜日のおやつ時間帯に、テーマを決めて利用者会議を開き、要望や意見を聞き取っている。家族が毎月利用料金の支払いに訪れる際にも要望や意見を聞き取り、ケアに生かしている。ホーム内及び外部の相談窓口を明記して家族に説明している。家族会への参加者も多く、色々な意見を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月第2金曜日に職員会を開いたり、6か月に1回人事考査を行い、意見の聴取に努めている。職員会には、経営者も参加し意見交換や話し合いなどをするようにしている。また、運営推進会議や家族会、広報誌などにも、職員の意見を反映させたり、委員制を導入し、運営に主体的に職員が関わられるようにしている。  (外部評価) 毎月第2金曜日に職員会を開き、6か月毎に人事考査を行う等、職員の意見を十分聞き取る機会を設けている。広報や栄養などの各委員会を職員で分担しており、話し合いの中で出た内容を運営やケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 6か月に1回人事考査を行っている際に、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価が項目ごとに行われ、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。職員は目標を持って働くように勤めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 第4木曜日に勉強会を行い、職員の意見を参考にして、ケアや業務に関してなど、テーマを持って勉強ができる環境を作っている。外部の研修（費用会社負担）にも年に3回はいけるように、勤務に応じ参加を促している。毎月新人には担当指導者がつき、介護業務のチェック表に基づき、段階的な職員育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 就労支援施設や託児所と職員を含め交流を行ったり、毎年、グループホーム協会の相互研修に参加したりして、意見交換やサービスの向上に努めている。また、石井地区のグループホーム連絡会にも職員が出席し、施設の見学をさせていただいたり、意見交換をし、他施設職員との交流を行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始する頃は特に全職員が表情や精神面などの変化を気づけるように観察するようにしている。事前の情報や事前に立ててある暫定ケアプランなどに関して、家族を巻き込み相談したり、管理者や計画担当者だけでなく、入居者担当制により、担当職員が個別に聴く機会を増やして、不安の軽減に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 特に初期の時は、家族様と連絡を密にし、できるだけご家族にも、足を運んでもらうよう声をかけ、来訪時などに生活状況をお伝えしたり、どんなことに困っていたかなどを聞き、不安を取り除けるように対応などを一緒に考えている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当職員を中心として、その方、その方にあったサービスを職員で話したりして、考え対応している。利用相談時、満床であるため、すぐ入所が出来ないこととお話した上で、必要性が高い方には、他の施設の紹介をしたり、介護保険の申請や即のサービス提供が必要な場合は、包括支援センター、医療面は、病院のソーシャルワーカーへの紹介を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) アセスメントをした、その方の好きな趣味や生活参加（役割活動）を中心として、職員と一緒に料理を作ったりお花を植えたりをして、日々の生活を共に過ごし、その中で信頼関係を築いている。また、入居者会議やおやつ時間、一緒に行う生活の時間を利用して、思い出話やいろいろな事を教わったりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的な外出し、家族様と家などご飯を一緒に食べることを関係づくりの継続に役立てたり、イベント等があるときは、家族様に連絡し、参加できる時は参加して一緒に過ごしてもらっている。また、家族様とも話しをした上で、職員と一緒に歩行練習や散歩、食事介助などを行っていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) その方の住んでた地域への散歩や行事を利用し、馴染みの方と会う機会を作ったり、家族様は、全員月1回以上、料金の支払いなどの機会を利用して、面会やお話をする機会を設けて頂いている。家族様以外のお友達の方等も、会いに来られると居室でお話してもらっている。  (外部評価) 馴染みの散歩コースに出かけたり、近所のスーパーで買い物を楽しんだりしている。毎月の利用料の支払いの際には、家族との会話がより楽しいものになるようさりげなく支援している。今までの馴染みの関係と合わせ、新しい馴染みができるよう継続的な支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 高度難聴や他の方との関係性が難しい方や話の組み立てが難しい方など、会話がしにくい方には職員が聞きにはいりコミュニケーションがうまく図れるように支援している。食事は毎食、職員やボランティアを含め、皆さん揃ってリビングで食べるようにし、3時には、呼びかけをして、おやつやレクリエーションを通して、関係づくりの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、ご自宅を訪問したり、手紙のやり取り、ホーム内でのイベント時の声かけ等を行い、状態確認や関係の維持に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当職員を中心に、独自のアセスメントシート（入居者把握シート）やセンター方式のアセスメントシートを利用して、意向や思いの把握に努めている。また、生活においては、その都度、本人様に希望を聞き、意向の把握には努めようとしているが、全職員が出来ているわけではないため、ユニット長や管理者がフォローしている。入居者会議を毎月実施し、行事の説明や一人一人の入居者様の希望をお聞きしている。 (外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりへの声かけに努め、希望や意向を聞き取ったり、表情などから思いを汲み取るよう努めている。毎月、利用者同士が話し合う会議や、担当職員が作成する「入居者把握シート」、センター方式などを活用し、職員会議で利用者の希望や意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 各種アセスメントシートを通じて、生活歴など把握しているが、今後、担当職員自身が把握するためにも、今までの細かい経過の把握などを、担当職員がご家族と協力して、把握していきたい。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の日報による申し送りや介護記録、ケアプラン評価などにある情報を、心身状態、1日の過ごし方、有する力の現状の把握をするため、職員間で共有している。重要なことに関しては、日報に赤線を引いたり、再度ユニットの申し送りノートに記載したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当職員が、アセスメント表をもとに意見やアイデアをだしてもらい。(月末)職員会や勉強会で話し合った内容を参考に、カンファレンスをユニットで行う。ユニット長と相談し、その内容を元に計画作成者を含めたケアプラン担当(各ユニットの実践者研修受講者4名)とケアマネが原案を作成、その後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。本人の意見を一番に考え、可能な限り実行できるように努めている。また、家族様にも協力してもらい、より良いケアが出来るように取り組んでいる。モニタリングは、計画作成者だけでなく、担当職員も日次、月次モニタリングを行い、把握に努めている。	
			(外部評価) 日々の生活記録を基に生活の様子や健康状態等について検討し、家族の意向や主治医の判断などを参考にして計画を作成しており、本人及び家族の承認を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行い、また状況変化に応じて臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録にプランの評価や本人さんのそのままの言葉を記録するようにし、入居者の方のその日の様子やケアの内容、また入居者さんに何か変わったことなどあれば、職員にその都度相談し、職員間で情報を共有できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者様の意思や、必要性に応じて、外出や外食、好きなものの買い物だけでなく、訪問リハビリ、訪問看護、病院受診など必要なサービスを利用し、入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでいる。また、その方に応じた音楽療法の提供も行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 防災訓練では、地域の防災組織や近所の方に協力していただいている。その他の当ホームでの行事にも、地域の人を招待したりして、その機会を利用して地域資源を把握しながら、入居者様に楽しんでもらえるように取り組んでいる。イベントのときは、運営推進会議で呼びかけを行い、メンバーに参加していただいたり、また、行事のときを中心に、専属の50名の登録ボランティア、支援していただいているNPO法人1法人、地域ボランティア団体(3団体)や北井門の地域組織などと協力をしながら、支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んでいただいているまた、 医療連携がとれるよう内科3医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器 科1医院、歯科1医院、心療内科1医院より往診もしていただ いている。電話相談や随時往診もしていただいている。また、 受診の際は、医療ノートに結果を記載し、職員がその情報 を共有している。緊急時は家族の許可を得て、適切な医療 対応をしている。  (外部評価) 主治医は利用者それぞれが希望する医師を選んでおり、内 科、眼科、皮膚科泌尿器科、歯科、心療内科等からの往診も 受けられる体制が整い、健康管理面で安心できる。更に緊急 時のマニュアルも作成しており、連絡網をスタッフルームに 備えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 便秘や身体状況の変化など電話での相談をし、いつでも受診 がしやすい体制を看護師に整えていただいている。定期的 な訪問時に、相談をしたり、質問をして、入居者様の健康管 理に努めている。また、入居者様とも顔なじみの関係が出来 ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、情報提供票を作成し、入院時の生活に役立ててい ただいている。その他、お見舞いの機会や電話により病院と 情報を交換している。早いうちから、退院に向けて病院と方 向性や今後のケアについて話し合い、早期の退院、入院中や 退院後のストレスや負担の軽減に結び付けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家族様と終末期の方針について、話し合い同意書を もらっている。ホームに入居中、状態に変化、異常が見られ た場合は、主治医と話し合い、職員などを交えて病状説明や 今後の生活や医療面の話し合いを行い、必要な状態になっ たと主治医が判断した場合は、看取りの指針に沿って、今後の 話し合いを行う。また、その後も、定期的に病状説明を主治 医、職員などと協力しながら、ご家族などに説明する。ま た、その話し合った内容や方針は、介護記録や医療ノート、 申し送りノートに記入し、職員の間で情報を共有している。  (外部評価) 看取りについては入居時に説明して同意を得ている。また、 管理者及び職員は、研修や内部での学習等で知識や技術を高 めることに努めている。看取りが必要になった場合には、主 治医から説明を受け、関係者や家族との連携により「看取り 介護の指針」に従って対応している。	看取り介護は大きな精神的負担がかかることから、利用者や 家族を直接支援する職員はベテランでも不安を感じることに ある。メンタル面の話し合いの時間を設けたり、不安を軽減 するような対策を講じ、さらに質の高いケアが実践されるこ とを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日常から、ご家族様との連絡や関わりをふやし、信頼関係を深め、何かあってもすぐ対応ができるようにしている。全職員が研修などに参加して応急手当や初期対応の訓練を受けている。また、職員は救命救急法を毎年受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は、全職員が参加できるようにし、北井門自主防災組織や町内会、民生委員、周辺地域の住民に協力してもらっている。地震水害対策のマニュアルもあり、それに沿っての地震訓練を過去2回以上行っている。訓練時は、毎回最悪の事態を想定して行うようにし、当日の訓練実施者を誰にするかは、当日まで本人に通達しないものとしている。  (外部評価) マニュアル及び緊急連絡網をスタッフルームに備え、各ユニットには火災報知器を設置しており、備蓄も行っている。夜間想定も含めた避難訓練を消防署、近隣、地域の自主防災組織等の協力を得て年2回実施し、訓練実施後に意見を参加者から聞き取っている。	災害発生時に、地域の一員としてホームができることを内部で協議した上で、運営推進会議等を通して地域に発信し、地域と相互に協力し合える体制を築いていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様への声かけは、ケアの時に常に気をつけている。もし、馴れ合いの言葉になってしまっている職員がいた時は、他の職員が声をかけ、その職員が気づけるようにしている。言葉のかけ方や傾聴の方法などは、勉強会でも行い、具体的事例を挙げ、話し合いを行っている。  (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては全職員が十分理解しており、秘密保持の誓約を交わしている。職員は利用者の人権を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を持ち、日常生活の中で誇りやプライバシーを損うことのないよう常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出などを計画する時は、まず、「何処か行きたい所はありますか?」と希望を聞いたり、その他の生活場面でも、おしゃれな服や髪留め、おやつや飲み物等も色々な種類を用意したり、選んでもらっている。担当職員や入居者会議においても、生活における希望や思いに関して、その都度にその内容を聴取をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活で、席を立とうとしている方がいたりしたら、自然な形で寄り添い、声をかけることで、今なにをしたいのかを知っておけるように意識している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出する時は、髪を整えたり、お化粧をしたり、服が汚れたりしていないかを確認したり、自分がどの服を着たいかを選んで頂いている。また、なじみの美容室に行ったり、希望により訪問美容サービスが受けれるようにもしている。おしゃれは、その日に関わるボランティアさんなどにも、協力をして関わって頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 定期的に入居者様の好き嫌いを把握しなおし、それを理解し、メニューの中にそれぞれの入居者様の好きな物を取り入れるようにしている。また、食材を作る(野菜の種まき)から、準備、料理作り、食器洗い、片付け等を通して、入居者様と協力して行っている。  (外部評価) 利用者と職員は共に食材の買い物や食事の準備を行っている。利用者会議で利用者の好みを聞いたり旬の料理をメニューに取り入れて食事を楽しむ等の工夫がある。食卓やいすは利用者一人ひとりにあった高さに調節され、食事しやすい環境を整えている。嚥下機能の低下した利用者には職員が寄り添ってさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脳にいいと言われる「ま(豆類)・ご(ゴマ類)・わ(藻類)・や(緑黄色野菜)・さ(魚類)・し(菌類)・い(穀類)」をできるだけ取り入れるようメニューを組む段階から、意識して行い、ひじきやわかめ、ゴマなどは、おかずに入れられるようであればできるだけ入れるようにしている。体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行ったり、量を減らしたりしている。また、体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、食事の間に水分を取ってもらえるように努めている。夏(スイカ)や冬(みかん)は、特にくだもので水分をとれるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人でできる方は、最初は自分でしてもらい、その後、汚れが残っていたら職員が手伝い、一人ではなかなか難しい方は、職員が横につき添い手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排尿チェック表は、必要だと思った方にまず2週間くらい排泄チェックをつけて、なぜ、どこで、いつも何時くらいに排尿があるかなどを調べ、その時間に間に合うように、トイレ誘導の時間を変えたりし、必要に応じ、チェック表を継続したり、中止し、再度アセスメントしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>支援の必要な利用者については2週間程度の排泄チェックを行い、パターンを把握したうえで声かけやトイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて医師と相談し、一人ひとりに合った排泄支援を計画的にすすめている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>散歩や園芸療法などで外へ出る機会を持ち、体を動かしていただき、入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。また、便秘になりそうな方にはフルーツやセンナ茶を出したり、食事や水分量にも気をつけて取り組んでいる。排便が出てない時のドクターの指示を一覧表にして対応しているが、月末に排便表で確認し、定期的便薬や指示内容の変更や検討も、ドクターと相談し行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様に「何時頃がいいですか？」など希望を聞き行っている。浴槽には、入居者が選び入れることができる入浴剤を準備している。三日に一回以上は入浴できるように促し、努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>本人の希望する時間帯に合わせて、少なくとも3日に1度は入浴できるよう支援している。時に入浴剤や柚子、菖蒲等を入れることで季節感を取り入れるなど、入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、声かけや時間を変える等の工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>眠りにくい方には、朝水遣りや散歩を職員と行うことで、朝日を浴びていただき、セロトニンの分泌が促進できるようにしている。また、足温や体操や散歩に出かけ、体を動かして夜間眠れるように支援している。また、夜間眠れない入居者様がいたら、リビングに出てきてもらい、ホットミルクを出したり、職員が話し相手になり不安な気持ちを解消して休めるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。また、入居者様が飲酒される時は必要な場合、除薬を行ったり、熱発があった場合は解熱剤を医師と相談しながら服薬してもらう。誤薬がないように、服薬チェック板を作り、誤薬、飲み忘れがないように努めている。また、日付の確認を3回声に出してすることで誤薬防止に努めている。薬局の薬剤師とも連携し、職員が薬に関する疑問があれば相談したり、入居者様に関しても、不安などがあれば直接入居者様へ説明してもらったりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまでの生活歴や趣味に合わせて、お琴の先生であれば、発表する機会を作ったり、料理が好きな方には、食事作りを、花が好きな方には、花屋さんと協力し園芸療法を、音楽が好きな人には、音楽療法士に協力していただき、音楽療法の提供などを個々に応じて行っている。昼間に、横になって頂いている時も、ご家族に協力していただき、好きな音楽CDを持ってきていただき、部屋で聞いて頂くことができるなどの工夫をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出したいという希望があればいける日を、作りそれ以外にも、外食に行ったり外出したりしている。必要な方は、ケアプランにも組み込んでいる。  (外部評価) 日常的な外出として、散歩で近くの公園に行ったり、スーパー等買い物に出かけて楽しんでいる。またホームの車で外食や美術館等へも出かけている。知的障害者の施設に毎月1回訪問し、作品を一緒につくるなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と相談し、入居者様が少額の金銭管理をしていただいている。買い物などの際は、ご自分の財布から支払いをしていただいている。欲しいものがあれば、立て替えの許可を事前に頂いているため、気軽に本人と一緒に買い物に行っている。また、地域のパン屋と提携し、月に二回、ホームで入居者様にパンを選んで買ってもらい、金銭管理を職員が一緒に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 「電話をかけたい」と希望があれば、職員と一緒に電話をかけて、ご家族の方とお話して頂いている。時節にお手紙をだしたり、ご家族に電話したりする支援を担当職員が個別に行っている。また、ご家族の方で、面会がしにくい方には、定期的な電話でのやり取りをご依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 環境委員を中心に、季節によってホーム内に季節を感じる飾りを飾っている。定期的な換気（一日4回以上）湿温度計で、室温を測り生活しやすいよう外気温との差を含め、気をつけている。入浴時には、季節によってゆず湯菖蒲湯などを取り入れている。</p> <p>(外部評価) 玄関は広々としてゆったりしており、居間には畳の間やソファを備え、居心地のよい環境を整えている。廊下には外出時の思い出の写真や季節感のある作品が飾りつけられている。台所には小さいテーブルを置き、利用者が作業しやすいよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士の関係を把握し本人の意思に基づき、席を決めている。決めさせていただいた席の机や椅子は、高さを変えたり、クッションを置いたりして、居心地がよいように工夫している。テレビ等楽しめるときは、見えやすい場所へ移動し利用者同士で楽しませている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、本人が作成した作品を飾ったり、本人の使い慣れた家具や、アルバム、好みのものを持ち込み、使用して頂いている。また、ベッドの高さやリビングの机（3段階）椅子の高さ、家具の位置などその方の身体機能にも配慮してより居心地よく過ごしていただけるように工夫している。車いすに関して、背張りや背クッション、座面クッション、式台などを含め、長時間使用する場合は、工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には利用者の写真入りの作品が飾られている。居室内は明るく、たんすやベッドなど家庭から持ち込んだ馴染みの調度品や、思い出の写真や品物が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫している。全室エアコンと空気清浄機を備え、快適に過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者様専用の野菜の皮をむいたり、野菜を切ったり混ぜたりができるテーブルやまな板を用意している。電磁調理器を利用して、炒めたり、混ぜながら煮る作業も、入居者様にして頂いている。また、車いすや屈伸がしにくい人でも、園芸作業が楽しめるようレイズベッド（持ち上げ式花壇）を導入している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104381
法人名	株式会社 ヨシケンコーポレーション
事業所名	グループホームいしい
所在地	〒791-1105 愛媛県松山市北井門3丁目14番28号
自己評価作成日	平成21年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・憩いの場づくりが行えるよう、家庭的な暮らしと家族のような人間関係の中で、職員と入居者様が共生・協働により、家事や洗濯、掃除、買い物などの生活を一緒に行っています。・生きがいづくりに関して、趣味や特技、こだわりを大事にしながら、自律に向けて支えています。・脳トレ大学リーダーを中心に、脳トレ(園芸療法、音楽療法、芸術、アクティビティ、運動、食育(地産地消))を生活の中に取り入れ、五感を刺激し、脳の活性化を意識したケアに取り組んでいます。・地域交流・異世代間交流を活発に取り入れることで、人間関係の構築に役立っています。(2カ月に一回の託児所との交流、2カ月に一回の就労支援施設との交流、NPO法人1団体、ボランティア団体3団体の定期交流、その他登録ボランティア50名、ヘルパー実習受け入れ施設1か所)・地域において、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の普及・啓発に取り組んでいます。(去年一年間で7回開催)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議には立場の異なる出席者を多数得て自由に意見や要望を出してもらい、ケアの実践につなげている。移動販売のパン屋に定期的に来てもらったり、園芸療法等を取り入れたり、障害者施設と一緒に作品づくりをする等、利用者が楽しく生活できるよう工夫している。毎月1回、テーマを決めて利用者会議を開き、要望や意見を聞き取っている。重度化や終末期の支援を希望する場合は、医師の診断のもと家族や関係者等との連携を密にとり、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I.理念に基づく運営

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

## III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

## IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしい

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日

平成21年8月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営推進会議で、理念を具体化した内容を発表したり、朝のミーティングで唱和し、言葉かけやケアを行うときに、一人一人が理念を頭に置いて行うよう心がけている。新人職員などが入職した際は、理念の具体化に関して、話し合いをして頂き、全職員で共有するようにしている。</p> <p>(外部評価) 理念に「素直な心」「思いやりの心」「いつでも初心を忘れないところ」を玄関に掲げている。朝のミーティング時には唱和して共有し、ケアの実践につなげているが、地域との協力や連携を大切にしているホームの思いが十分にことばとして表わされているとは言えない。</p>	現在の理念を基に、地域との交流や連携を実践していることを織り込むことで、ホームの思いを内外に伝えることができるので、職員全員で話し合いを行い、それを盛り込んだ理念を掲げ実践していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 夕涼み会やそうめん流しなどの行事を毎年行い、開催の際は、地域の方々にも声をかけ、一緒に盛り上げていただいたり、お手伝いをして頂き、入居している方や職員とともに、楽しみを共有できるように努力している。また、一斉清掃や地域運動会、盆踊りなどの行事にも参加し、地域の一員として交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入しており、地域の行事にも参加している。また、ホーム主催の夕涼み会などに近隣の方に参加してもらったり、散歩の時に近所の方とあいさつを交わしている。近くの託児所の幼児の訪問や、中学校の体験学習を受け入れ、またボランティアの受け入れも積極的に行うなど、地域とのつながりを大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 散歩などを利用して、ゴミステーションの掃除や草引き等を行っている。また、地域の認知症高齢者の一時利用や、依頼があれば訪問等も行っている。(今年の夏に、日射病で倒れている方がいると地域の方から通報がホームに入り、民生委員さんと協力し、その方の早期の受診につながった。)</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、年一回独自の評価表に基づき、ご家族と一緒にその項目に基づき、評価や意見をいただくようになっている。運営推進会議にて情報交換、意見交換を積極的に行い、それを勉強会や職員会で話し合っサービス改善に活かしている。また、利用者様にも参加していただくことで、その声を直接外部の方に聞いてもらう機会としても役立っている。	
			(外部評価) 会議の意義を理解した出席者の参加を得て、2か月毎に開催している。ホームの状況や外部評価の結果等を議題として活発な意見交換が行われている。またホーム独自の評価表を作り、出席者に意見や感想を提出してもらい、サービスの向上につなげている。	家族会の代表者に出席してもらっているが、他の家族にも出席をお願いして、異なった視点から意見や思いを述べてもらうなど、サービスの向上につながる取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 今年度より、定期開催にしている運営推進会議をはじめとして、ホーム行事などにも声をかけて訪問していただき、直接に入居者様、職員と話をする場を作っている。認知症サポーター養成講座を通じて、意見交換などを行っている。また、生活保護受給者に関しても、生活福祉課担当者との状況の連絡を密にとったり、退去者の福祉電話などの福祉サービス導入に結びつけたりしている。	
			(外部評価) 市とは生活保護を受けている利用者について情報交換を行ったり、ホームの実情や要望を伝えるなど、連絡を密に取っている。また市の依頼を受けて、地域向けの認知症理解の啓発活動や研修会の講師などを行うこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 新人研修や勉強会等を通じて、職員全てが身体拘束について正しく理解したケアに取り組んでいる。また、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」以外の抑圧となるであろう行為についても十分注意し、自由な暮らしを支援している。	
			(外部評価) 職員は、利用者に与える身体的・精神的苦痛の弊害をよく認識しており、自由に伸びやかな暮らしが送れるよう努めている。日中は玄関に施錠しないで利用者一人ひとりを見守り、近隣や警察にも協力を依頼して、安全で自由な生活を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者が、高齢者虐待防止教育システムの講師養成研修に参加しており、その内容を職員に伝達講習を予定している。勉強会でプリントを配布し虐待防止法等について学んだり、日々の観察を行うだけでなく、職員の精神ケアもしっかりとされており、虐待が見過ごされないよう努められている。特に、言葉かけが悪かったりしたら、言葉の圧迫にならないように、(入居者が声をかけたら)すぐ対応して、そのままにならないようお互いに注意を促すように気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員の代表に外部研修に参加してもらい、勉強会にて伝達講習を行い話し合う機会が設けられている。また、資料配布で自己学習ができるようにフォローアップにも努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書の記載内容などを契約前にご家族やご入居者などに十分説明をし、理解納得をしていただき、ホームが住みやすい環境であると思っただけできるよう努めている。重要事項などが変更したら、家族会を開催し、不安や疑問の確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 第三水曜日のおやつ時間を入居者会議として、旬の食べたい物や行きたい場所そして、各月のテーマを決めて、意見をいただくようにしている。また、平成18年より全入居者を担当制にしており、担当が不安や意見の聴取や窓口の役割を担っている。運営推進会議においても、入居者様も参加され、意見を述べる機会を設けられている。  (外部評価) 毎月第3水曜日のおやつ時間帯に、テーマを決めて利用者会議を開き、要望や意見を聞き取っている。家族が毎月利用料金の支払いに訪れる際にも要望や意見を聞き取り、ケアに生かしている。ホーム内及び外部の相談窓口を明記して家族に説明している。家族会への参加者も多く、色々な意見を聞き取るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月第2金曜日に職員会を開いたり、6か月に1回人事考査を行い、意見の聴取に努めている。また、提案があれば、稟議書や行事計画書、企画書を職員が提出し、実施できるようにしているとともに、スポーツ交流や懇親会を開き、普段言にくい意見も聞ける場を設けている。</p> <p>(外部評価) 毎月第2金曜日に職員会を開き、6か月毎に人事考査を行う等、職員の意見を十分聞き取る機会を設けている。広報や栄養などの各委員会を職員で分担しており、話し合いの中で出た内容を運営やケアに反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 6か月に1回人事考査を行っている際に、就業状態やケアに関して、自己評価と、代表者、管理者の評価が項目ごとに行われ、三者面談を通じ、勤務状況や、職員の努力、これからの目標などを評価し、賞与や給料などに反映している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人には担当指導者がつき、介護業務のチェック表に基づき、段階的な職員育成に努めている。また、外部、内部研修(会社負担)に積極的に参加できる機会を設けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近隣グループホーム3カ所と行事の開催などの際に、行き来していたり、知的障害者のデイや託児所の職員との交流を通じた話し合いを行ったり、グループホーム協会の相互研修に参加したりし、福祉同業者との意見交換やサービス向上に努めている。また、管理者が石井地区のグループホーム連絡会の会長をしており、他施設との交流が盛んに行われている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に、体験入居や訪問、ショートステイ等を行うことで、情報収集をしっかりと行い、本人や家族の声に耳を傾けて、暫定ケアプランを作成し、それに基づくケアを行うことで信頼関係を築くよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、訪問や来所してもらい現状や状況をよく聴取し、一緒に課題解決のための方法を模索するようにしている。また、入居者様において、各担当職員が入居者様本人の声に耳を傾けたり、家族様と相談したり信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者様の各担当職員が中心になり、本人様の思い、家族様の思いなどに耳を傾け、そのひとに応じた個別のサービスに努めている。また、利用相談時、満床である場合は、すぐの入居ができないこととお話した上、必要性が高い方には、他の施設の紹介したり、介護保険の申請や即のサービス提供が必要な場合は、包括支援センターを紹介、医療面が必要なケースは、病院のソーシャルワーカーへの紹介を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) なじみの関係づくりをおこなえるよう、本人さんに声をかける機会を増やしたり、編み物やまな板仕事など趣味を活かした楽しみを本人さんと一緒に行う機会を増やすように努力している。また職員も、掃除や調理、洗濯たみなどの生活場面で、入居者様に助けられており、各職員入居者様と喜怒哀楽をともに感じあえる関係づくりを努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に1回以上、全入居者様に対して面会の協力をして頂いている。また、外出の際には、積極的にご家族に協力を求め、茶菓子などの提供により、本人さんとの関わる時間を意図的につくったり、散歩やお話相手の協力を頂いている。ケアにおいては、入居者様だけでなく、何事にも家族様の思いや、かわりを大事にしながらの関係づくりを、努められている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人さんのなじみの場所を散歩したり、行事で出かけたりしている。また、地域の盆踊りや運動会に出かけると見慣れた方が、声を自然とかけてくれて、関係の継続に役立っている。また、ホームのイベント時には、入居者様の友人や、ご家族様の来訪をしていただくことにより、馴染みの関係が途切れないように努めている。  (外部評価) 馴染みの散歩コースに出かけたり、近所のスーパーで買い物を楽しんだりしている。毎月の利用料の支払いの際には、家族との会話がより楽しいものになるようさりげなく支援している。今までの馴染みの関係と合わせ、新しい馴染みができるよう継続的な支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様の中に、職員が入ったり、レクリエーションや、イベントをすることで、お互いが交流を持て、共同生活という場の中で、料理や洗濯といった家事等の、役割分担をすることで、良い協力関係が築けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も、その方のご自宅を訪れ、家での生活の状態を確認し、不安や悩み、サービスが的確に行われているかなどの確認や相談を行っている。また、退去された方からも、ホームに足を運びお話をされに來たりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 独自の把握シートや課題抽出のアセスメントシート、センター方式のアセスメントツールなど、その時やその状況に合わせたアセスメントツールを導入し、それを利用しご本人やご家族の思いや意向の聞き取りを行い、プランや生活に反映させている。また、入居者会議やカンファレンスにて担当者を中心に一人一人の思い、意見交換を行っている。本人の意見を、尊重して、入居者様の気持ちを少しでも把握しようと日々努めている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者一人ひとりへの声かけに努め、希望や意向を聞き取ったり、表情などから思いを汲み取るよう努めている。毎月、利用者同士が話し合う会議や、担当職員が作成する「入居者把握シート」、センター方式などを活用し、職員会議で利用者の希望や意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家や病院でサービスを利用されていた方は、介護支援専門員や病院の相談員に情報提供書を依頼し、それを今後のケアの参考にしたり、入居後は、ご家族の方にも協力していただき、様々なアセスメント表を活用し、それを元に作成されたケアプランに沿ってケアを行っている。日々の介護記録でも、プランの評価を記入し、把握ができるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 9人の入居者様がどこで、何をしているかをイメージしながら、職員が業務を行うようにしている。入居者様の状態、表情、しぐさや態度、言葉を各職員が観察することで、現状を把握し、職員同士が声をかけあい情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当職員が、アセスメント表をもとに意見やアイデアをだしてもらい。(月末)職員会や勉強会で話し合った内容を参考に、カンファレンスをユニットで行う。その内容を元に計画作成者を含めたケアプラン担当(各ユニットの実践者研修受講者4名)とケアマネが原案を作成、その後、ご家族、本人と話し合い、介護計画を修正しながら作成している。本人の意見を一番に考え、可能な限り実行できるように努めている。また、家族様にも協力してもらい、より良いケアが出来るように取り組んでいる。モニタリングは、計画作成者だけでなく、担当職員も日次、月次モニタリングを行い、把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 日々の生活記録を基に生活の様子や健康状態等について検討し、家族の意向や主治医の判断などを参考にして計画を作成しており、本人及び家族の承認を得ている。基本的には3か月毎に見直しを行い、また状況変化に応じて臨機応変に対応している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) その時あった、内容、情報をプランに沿って細かく記録に残し日々の様子や気づきも記録している。特に「」書きで、本人やご家族の言葉を大事にし、記入している。更に職員間での、伝達、徹底に力をいれ、全員が同じように統一したケアを実施出来るようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居者様の意思や、必要性に応じて、訪問リハビリ、訪問看護、病院受診など必要なサービスを利用し、入居者様が今望むものを可能な限り、行えるように取り組んでいる。また、音楽療法の提供も行ったり、希望者に対して、公民館行事への参加支援も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 防災訓練では、地域の防災組織や近所の方に協力していただいている。その他の当ホームでの行事にも、地域の人を招待したりして、その機会を利用して地域資源を把握しながら、入居者様に楽しんでもらえるように取り組んでいる。イベントのときは、運営推進会議で呼びかけを行い、メンバーに参加していただいたり、また、行事のときを中心に、専属の50名の登録ボランティア、支援していただいているNPO法人1法人、地域ボランティア団体(3団体)や北井門の地域組織などと協力をしながら、支援を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 主治医は、入居者様やご家族に選んでいただいているまた、 医療連携がとれるよう内科3医院、眼科1医院、皮膚科泌尿器 科1医院、歯科1医院、心療内科1医院より往診もしていただ いている。電話相談や随時往診もしていただいている。また、 受診の際は、医療ノートに結果を記載し、職員がその情報 を共有している。緊急時は家族の許可を得て、適切な医療 対応をしている。</p> <p>(外部評価) 主治医は利用者それぞれが希望する医師を選んでおり、内 科、眼科、皮膚科泌尿器科、歯科、心療内科等からの往診も 受けられる体制が整い、健康管理面で安心できる。更に緊急 時のマニュアルも作成しており、連絡網をスタッフルームに 備えている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 定期的な訪問や電話で相談をしたり、質問をして、入居者様 の健康管理に努めている。また、入居者様とも顔なじみの関 係が出来ている。変化があった場合は電話で相談をしたりし ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、情報提供票を作成し、入院時の生活に役立てて いただいている。その他、お見舞いの機会や電話により病院と 情報を交換している。早いうちから、退院に向けて病院と方 向性や今後のケアについて話し合い、早期の退院、入院中や 退院後のストレスや負担の軽減に結び付けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に家族様と終末期の方針について、話し合い同意書をも らっている。ホームに入居中、状態に変化、異常が見られた場合 は、主治医と話し合い、職員などを交えて病状説明や今後の生活 や医療面の話し合いを行い、必要な状態になったと主治医が判断 した場合は、看取りの指針に沿って、今後の話し合いを行う。ま た、その後も、定期的に病状説明を主治医、職員などと協力しな がら、ご家族などに説明する。また、その話し合った内容や方針 は、介護記録や医療ノート、申し送りノートに記入し、職員の間 で情報を共有している。</p> <p>(外部評価) 看取りについては入居時に説明して同意を得ている。また、 管理者及び職員は、研修や内部での学習等で知識や技術を高 めることに努めている。看取りが必要になった場合には、主 治医から説明を受け、関係者や家族との連携により「看取り 介護の指針」に従って対応している。</p>	<p>看取り介護は大きな精神的負担がかかることから、利用者や 家族を直接支援する職員はベテランでも不安を感じることは ある。メンタル面の話し合いの時間を設けたり、不安を軽減 するような対策を講じ、さらに質の高いケアが実践されるこ とを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ご家族様の面会時に職員から生活の状態などを積極的にお話しし、信頼関係を深め、急変や事故があった際もクレームや不安を軽減できるようにしている。入居者様が急変して、対応した際はドクター、管理者、家族様に連絡を取り、指示に従い対処する。応急処置をした場合は、その内容を介護記録や医療ノート、申し送りノートなどに記載し、職員が共有している。職員は毎年救急救命法を受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練は、全職員が参加できるようにし、北井門自主防災組織や町内会、民生委員、周辺地域の住民に協力してもらい行っている。地震水害対策のマニュアルもあり、それに沿っての地震訓練を過去2回以上行っている。訓練時は、毎回最悪の事態を想定して行うようにし、当日の訓練実施者を誰にするかは、当日まで本人に通達しないものとしている。  (外部評価) マニュアル及び緊急連絡網をスタッフルームに備え、各ユニットには火災報知器を設置しており、備蓄も行っている。夜間想定も含めた避難訓練を消防署、近隣、地域の自主防災組織等の協力を得て年2回実施し、訓練実施後に意見を参加者から聞き取っている。	災害発生時に、地域の一員としてホームができることを内部で協議した上で、運営推進会議等を通して地域に発信し、地域と相互に協力し合える体制を築いていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 部屋には、暖簾をかかげドアが開いている時も、一定のプライバシーが守れるように配慮している。プライバシーに関わる話をするときは、居室に移動して頂き行っている。言葉かけの内容の検討は、客観的でないとわかりにくいいため、勉強会にて具体的な事例を用いながら、話し合っている。  (外部評価) 個人情報の取り扱いに関しては全職員が十分理解しており、秘密保持の誓約を交わしている。職員は利用者の人権を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を持ち、日常生活の中で誇りやプライバシーを損うことのないよう常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物や服など、生活の中で選択が必要な場合、オープンクエッションできいたあと、選択がむずかしいような場合のみ、クローズクエッションで選択肢をいくつか用意し、決めてもらうように心がけている。入居者会議においても、希望を多く取り入れるようにしてるほか、担当職員が個別に、話を聞き対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望や思いを取り入れたケアプランに沿って、それぞれにあった生活を優先し、できるだけ満足の行く充実した生活をして頂いている。また、その時の体調や気分を伺い、無理強いはしないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者様が行きたいと思う、美容室など行きなれた外出や行事の際は、おしゃれの準備をする時間を、計画の段階から考えて支援している。また、なじみの美容室に行く支援や訪問美容サービスができるようにしている。一人に1本お気に入りのクシを用意し、朝起きた時にできるだけ本人が整えられ、そして、その後に身だしなみを整える支援も出来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者様の好き嫌いをいつでも見れるところに張り、飲み物も「熱いものもいいか、冷たいものもいいか、どんな飲み物が好きか」などを把握している。食べれない物等は、代替食を提供している。魚をそのまま持ってきていただき、捌いていただいたり、季節のものを献立に取り入れ、準備から片づけまで、職員と入居者様が一緒に行っている。また、職員が料理教室に参加する機会を設けられている。 (外部評価) 利用者と職員は共に食材の買い物や食事の準備を行っている。利用者会議で利用者の好みを聞いたり旬の料理をメニューに取り入れて食事を楽しむ等の工夫がある。食卓やイスは利用者一人ひとりにあった高さに調節され、食事しやすい環境を整えている。嚥下機能の低下した利用者には職員が寄り添ってさりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脳にいいと言われる「ま(豆類)・ご(ゴマ類)・わ(藻類)・や(緑黄色野菜)・さ(魚類)・し(菌類)・い(穀類)」をできるだけ取り入れるようメニューを組む段階から、意識して行い、ひじきやわかめ、ゴマなどは、おかずに入れるようであればできるだけ入れるようにしている。体重増加や糖尿病などがある入居者様にはカロリーの制限を行ったり、量を減らしたりしている。また、体重の著しい減少がある入居者様には、補助食品や嗜好品などでカロリーの確保を行ったりしている。水分をあまり取られない入居者様には、食事の間に水分を取ってもらえるように努めている。夏(スイカ)や冬(みかん)は、特にくだもので水分をとれるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの必要性を入居者様にしっかりと説明し、理解していただけるように努め、口腔ケアをしていただいている。入居者様に職員がつき合い一緒に口腔ケアを行っている。毎食時、全員の口腔ケアを行っている。歯科衛生士に訪問指導を随時に受けている。その人に応じ、ブラッシングだけでなく、フロッシングやバス法での介助ケアを行ったりしている。義歯の方は、全員毎夜にセラコートによる義歯洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その方にあった排泄用具を状況に合わせて使用できるようにし、提供している。パットも50cc100cc150ccと少量の吸収タイプのもや失禁パンツも活用している。また、必要な方に期間を決めて、排泄のチェック表を利用したり、それに基づき、入居者様に定期的にトイレへいっていただき、習慣付けている。できるだけ布パンツを着用できるよう定期的に検討している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>支援の必要な利用者については2週間程度の排泄チェックを行い、パターンを把握したうえで声かけやトイレ誘導等の支援を行っている。必要に応じて医師と相談し、一人ひとりに合った排泄支援を計画的にすすめている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>散歩や園芸療法などで外へ出る機会を持ち、体を動かしていただき、入浴時にお腹を観察し、腹部膨満があれば、浴槽内でマッサージを行い出来る限り自然に排便できるように努めている。また、便秘になりそうな方にはフルーツやセンナ茶を出したり、食事や水分量にも気をつけて取り組んでいる。排便が出てない時のドクターの指示を一覧表にして対応しているが、月末に排便表で確認し、定期の便薬や指示内容の変更や検討も、ドクターと相談し行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>浴槽には、入居者様を選び入れることができる入浴剤を準備している。入居者様の希望に沿い、時間や回数の調節を行っている。三日に一回以上は入浴できるように促し、努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>本人の希望する時間帯に合わせて、少なくとも3日に1度は入浴できるよう支援している。時に入浴剤や柚子、菖蒲等を入れることで季節感を取り入れるなど、入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、声かけや時間を変える等の工夫をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>眠りにくい方には、朝水遣りをして、朝日を浴びたりしていただき、セロトニンの分泌が促進できるようにしている。また、足温や体操や散歩に出かけ、体を動かして夜間眠れるように支援している。また、夜間眠れない入居者様がいたら、リビングに出てきてもらい、ホットミルクを出したり、職員が話し相手になり不安な気持ちを解消して休めるように支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<b>(自己評価)</b> 薬の変更があれば、医療ノートと申し送りノートに記入し職員が情報を共有している。また、入居者様が飲酒される時は必要な場合、除薬を行ったり、熱発があった場合は解熱剤を医師と相談しながら服薬してもらう。服薬チェック板を作り、誤薬、飲み忘れがないように努めている。また、日付の確認を3回声に出してすることで誤薬防止に努めている。薬局の薬剤師とも連携し、職員が薬に関する疑問があれば相談したり、入居者様に関しても、不安などがあれば直接入居者様へ説明してもらったりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<b>(自己評価)</b> これまでの生活歴や趣味に合わせて、料理が好きな方には、食事作りを、花が好きな方には、花屋さん和協力し園芸療法を、音楽が好きな人には、音楽療法士に協力していただき、音楽療法の提供などを個々に応じて行っている。また、買い物、将棋なども楽しんでもらえるように支援出来ている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<b>(自己評価)</b> ケアプランに組み込み、歩行練習や毎朝花の水遣りをされる人が居たり、散歩で気分転換を図ったり、希望に沿った外食や外出、買い物を月に数回行えるように努めている。今治や大洲など普段行けない場所を希望した際は、日帰り外出をみんなと一緒にすることで、かなえられるようにしている。また、ご家族様にも外出や散歩の協力をして頂いている。 <b>(外部評価)</b> 日常的な外出として、散歩で近くの公園に行ったり、スーパー等買い物に出かけて楽しんでいる。またホームの車で外食や美術館等へも出かけている。知的障害者の施設に毎月1回訪問し、作品と一緒に作るなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<b>(自己評価)</b> ご家族様と相談し、入居者様が少額の金銭管理をしていただいている。買い物などの際は、ご自分の財布から支払いをしていただいている。欲しいものがあれば、立て替えの許可を事前に頂いているため、気軽に本人と一緒に買い物に行っている。また、地域のパン屋と提携し、月に二回、ホームで入居者様にパンを選んで買ってもらい、金銭管理を職員が一緒に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<b>(自己評価)</b> 時節にお手紙をだしたり、ご家族に電話したりする支援を担当職員が個別に行っている。また、ご家族の方で、面会がしにくい方には、定期的な電話でのやり取りをご依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 環境委員を中心に、リビングや廊下には、自然な素材を中心に季節感のある飾り付けをしている。定期的な換気（1日4回以上）を行うことで自然な温度調節を心がけている。また、台所から聞こえてくる包丁の音などが、うまく生活感を漂わせている。</p> <p>(外部評価) 玄関は広々としてゆったりしており、居間には畳の間やソファを備え、居心地のよい環境を整えている。廊下には外出時の思い出の写真や季節感のある作品が飾りつけられている。台所には小さいテーブルを置き、利用者が作業しやすいよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには、個別に設置されたイスの他、二人がけのソファや、畳コーナーなど、入居者様が自由に過ごしていただけるように工夫してある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、本人の使い慣れた家具や、アルバム、好みのものを持ち込み、使用して頂いている。また、ベッドの高さやリビングの机（3段階）椅子（36センチから40センチ）家具の位置などその方の身体機能にも配慮してより居心地よく過ごしていただけるように工夫している。車いすに関しても、背張りや背クッション、座面クッション、式台などを含め、長時間使用する場合は、工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口には利用者の写真入りの作品が飾られている。居室内は明るく、たんすやベッドなど家庭から持ち込んだ馴染みの調度品や、思い出の写真や品物が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫している。全室エアコンと空気清浄機を備え、快適に過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 職員は、入居者様一人一人の「できること」「わかること」を理解して、安全に掃除が出来るようにコードレスの掃除機の導入や居室の間違いがないように、入り口に本人の写真を飾る、入居者様が調理をするためのテーブル、園芸用レイズベッドなど常に自立した生活が送っていただけるように、考えて工夫している。</p>	